

六月の園藝

○挿木法について

草や木の枝、時には葉を、土中に挿して、根を出させることを、挿木といふ。

大抵の植物は、挿木によつてよく根が出るもので、根の出ぬのは却つて、例外のものとして云つてよい。

挿木の方法は至つて容易であつて、始めて行つても、よく着くところから、自分には何か特殊の天才でもあるかのやうに、我れ知らず得意になることもある。

一枝からでも、やりやうによつては、随分多くの挿穂がとれる一般に、株分等よりも、一時に澤山に蓄殖することが出来る。

生垣に作るなり、或は花壇の縁植にするなり、

東京女高師教授

有川ヒサエ

澤山の苗の要る時には、學校でも、幼稚園でも、小供にめいめい挿木をさせると、便利である。殊に數年を経ずして、それがちやんと、形をなして來る時には、其よろこびは、どうであらう。且つ小供の卒業後もいつまでも紀念となつて残つてゆくであらう。

挿木の時期について、大抵のものは、梅雨の間が、空中に濕氣が多くて、乾燥が少く、根の出ることが容易である。又桃とか、櫻といふやうな、落葉性のものは秋から冬にかけて、枝上に葉のない芽のかたい間が、よろしいやうである。しかし此時のは、根が出る迄に、随分日子がかゝるから氣永に構へねばならぬ。菊、ゼラニウムのやうな草性のものは、嚴寒、酷暑の候をさけてさへすれば六つかしく考へずともよい。時季に應じて、手

少其儘置いて、乾してから挿すと、却つて腐敗が少くて根が出易い。

挿木後根の出る迄は、何れの場合でも、強い陽にあてぬやうに、且つ水氣がきれぬやうに、することが、何よりの注意である。根の出ぬうちに、肥料など施す人はないが、時としては、根より先きに、枝上の芽がいきいきと伸びて來るのでこれにだまされることがある。これは根よりでなく、切口より水を吸ひ上げ、それで芽が伸びたので、かうなると、枝が一體に乾き易くなるから、あまり好ましい状態ではない。

根が出たらば、床のものなら、廣く植え出すし、鉢のものなら、一本宛、培養土を以て鉢に植え取らねばならぬ。

何しろ、至極らくな、しかもたのしみな、幼稚園の小供にも六つかしくない仕事であるから、夫れ夫れに小さな土鉢でも、なければ、サッへの殻でも、辨當の折箱でも、かういふものを一つ宛與

へ、庭の植物を何でも手當り次第に、切つて挿させるとよい。小供は毎日、心配して鉢の中をのぞいて居るうちに、根の出やすいもの、出憎いものも観わけやうし、赤白い軟い小さな根か、房のやうになつて、切口や節の處から、ポツリポツリ出て來る様も観出して歡ふてあらう。

雑報

○第二回全國幼稚園關係者

大會

先に東京市に於て開かれたる第一回全國幼稚園關係者大會の折、豫定されたる第二回の同會大會は愈々來る十月、大阪市に於て開催さるゝ事となりたり、其規定左の如し。

一、場所 大阪市

二、期日 大正八年十月十七日ヨリ三日間